

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	喜璃夢		
○保護者評価実施期間	令和7年3月27日	～	令和7年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和7年3月27日	～	令和7年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	令和7年3月27日	～	令和7年3月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	送迎時、年に1回の学校訪問などで、連携を図れる関係づくりを心掛けていく。	学校・園・児童クラブ・家庭などとすぐに連絡が取りあえるよう常日頃から連携を心かけている。	問題が拡大化する前に少しずつ必要な支援を心かけていく。
2	行政・相談機関・児相など、様々な関係機関との連携が図りやすい。	行政・相談機関・児相などは日頃から情報の共有が図れるよう会議への参加、相手先への訪問などを日頃から心かけている。	関係する機関のほか、専門的な視点で意見をいただける機関との連携も図っていく。
3	若者から経験豊かなベテラン職員までの幅広い年齢層で様々な角度から対応することができる。	支援者会議を定期的に行い、本人の課題の整理などをしやすいようにしている。	今の社会情勢に合わせた、子ども達が関心を寄せる情報(ゲームやSNSなど)は若い世代がたくさん情報を持っている。躰きの背景にあるそうした情報も大切にしながら子ども達と関わっていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援に必要な知識やスキルを持つ若い世代の育成。	今後、若い世代の訪問支援同行を重ねることで、アドバイザーとして活躍できる人材の育成を行っていく。	経験値を高めさせ様々な事例に対応できるようにしていく。
2	積極的な訪問支援は行っていない。	学校や園の先生方は子どもに向き合う専門職と考えているため。しかし、先生方がおっしゃってくださる様に、子ども達の成長の道筋を把握して、課題を整理しやすい立場にあるので、それは求められ保護者も望むなら訪問先と情報共有を行っていきたい。	今後とも必要な情報共有は行っていく。
3			